

FUJISOFT ソリューションセミナー 2010

New answer is here

~クラウドコンピューティングの実践的活用~

2011年3月期
第2四半期 決算説明資料

2010年11月 5日

富士ソフト株式会社



● 目次

2011年3月期 第2四半期連結業績

2

2011年3月期 連結業績予想

14

トピックス

22

(参考資料) 2011年3月期 第2四半期単体業績
2011年3月期 通期単体業績予想

24



2011年3月期 第2四半期 連結業績



連結業績ハイライト

売上高は、一部で回復傾向にあるものの、主要子会社の減収を主因に、前年同期比△7.7%

- ◇IT分野ではこれまでのお客様の投資抑制の反動もあり、一部で受注環境に回復の兆しが見られるものの、投資に対する慎重な姿勢・低コスト志向は続いており、売上高は未だ完全な回復に至っておらず、前年同期比7.7%減の668億円となりました。
- ◇減収の主な要因は、前年第1四半期で販売が終了したサイバネットシステムの主力商品「MATLAB」の影響を主因に、富士ソフトのソリューション関連ビジネス、子会社のアウトソーシング運用の減少によるもので、SI事業全体で60億円のマイナスとなりました。

営業利益は、売上高の減少により、前年同期比△6.7%

- ◇営業利益は、経費の削減や開発案件の不採算化抑制による原価率の改善を図ったものの、売上高の減少により、前年同期比6.7%減の15億円となりました。
- ◇四半期純利益は、法人税等調整額の影響もあり、前年同期比2.9%増の12億9千万円となりました。

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同比	2011年3月期 上期 期初計画	計画比
売上高	66,824	72,432	92.3%	68,700	97.3%
営業利益	1,526	1,636	93.3%	2,000	76.3%
営業利益率	2.3%	2.3%		2.9%	
経常利益	1,575	1,616	97.5%	1,800	87.5%
経常利益率	2.4%	2.2%		2.6%	
四半期純利益	1,291	1,254	102.9%	1,200	107.6%
四半期純利益率	1.9%	1.7%		1.7%	



連結セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2011年3月期		2010年3月期		前同差	前同比
	上期実績	構成比	上期実績	構成比		
売上高 合計	66,824	100.0%	72,432	100.0%	△ 5,607	92.3%
SI事業	61,534	92.1%	67,416	93.1%	△ 5,882	91.3%
組込系ソフトウェア開発	18,923	28.3%	19,655	27.1%	△ 731	96.3%
業務系ソフトウェア開発	24,107	36.1%	23,821	32.9%	286	101.2%
アウトソーシング事業	7,720	11.6%	9,267	12.8%	△ 1,547	83.3%
その他SI事業	10,783	16.1%	14,672	20.3%	△ 3,888	73.5%
ファシリティ事業	1,081	1.6%	1,070	1.5%	10	101.0%
その他事業	4,208	6.3%	3,944	5.4%	263	106.7%

セグメント別売上高のポイント

●組込系ソフトウェア開発

デジタルテレビ関連は好調だったものの、通信制御系、機械制御系が開発量・開発単価減少により落ち込み、組込系全体ではマイナスとなりました。

●業務系ソフトウェア開発

流通業は減少したものの、金融業が好調だったことやアイデア・コンサルティングを新規連結したことに伴い、前年を上回りました。

●アウトソーシング事業

富士ソフトのデータセンタービジネスは好調なもの、子会社の特定顧客のシステム保守・運用減少に伴い、売上が減少しました。

●その他SI事業

サイバネットシステムの「MATLAB」販売終了に伴う減収と、富士ソフトのソリューション関連ビジネスの減少により、大きく減少しました。



グループ上場会社売上高

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同 比	2011年3月期 上期 期初計画	計画 比
富士ソフト(東証一部)	34,111	34,946	97.6%	35,500	96.1%
サイバネットシステム(東証一部)	6,601	8,824	74.8%	5,905	111.8%
ヴァンキュラム ジャパン(JASDAQ)	4,479	4,757	94.2%	4,874	91.9%
サイバーコム(JASDAQ)	2,840	3,109	91.3%	3,280	86.6%

グループ上場会社売上高のポイント (単体業績はP.25をご参照ください)

●サイバネットシステム

前年6月まで販売していた解析ソフトウェア「MATLAB」の販売終了による減収はあったものの、機械系、光学系等ソフトウェアの販売及び保守契約の更新が好調に推移しました。

●ヴァンキュラム ジャパン

システム保守・運用は堅調に推移したものの、システム開発は受注までの期間の長期化、価格競争の激化等により計画未達となりました。

●サイバーコム

引き続き、組込系ソフトウェア開発における発注の規模縮小、時期延期、凍結の影響により、計画未達となりました。

(その他の主な連結子会社)

●ヴィクサス

2011年3月期	上期売上高	11,132百万円
2010年3月期	上期売上高	13,026百万円
		(前同 比: 85.5%)



連結売上総利益について

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同差	前同比
売上高	66,824	72,432	△ 5,607	92.3%
売上原価	51,412	56,512	△ 5,099	91.0%
売上原価率	76.9%	78.0%	- 1.1%	
売上総利益	15,412	15,920	△ 507	96.8%
売上総利益率	23.1%	22.0%	+ 1.1%	

売上総利益のポイント

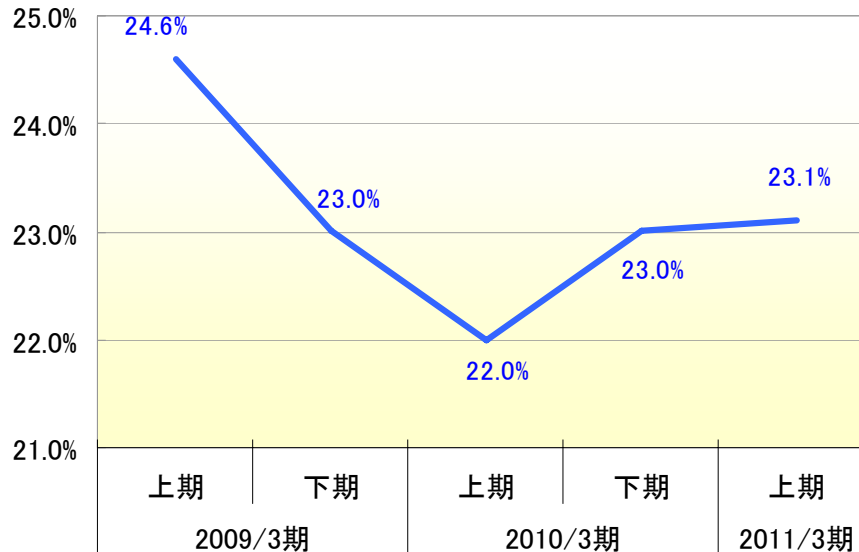
● 売上総利益率の改善

(22.0%→23.1%)

前年は富士ソフトの不採算案件発生により、売上総利益率が悪化。

今期は、プロジェクト管理の強化により、大型不採算案件はなし。

■ 連結売上総利益率の推移





連結販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期実績	2010年3月期 上期実績	前同差	前同比
販売費及び 一般管理費	13,886	14,284	△ 397	97.2%
人件費	8,696	8,301	394	104.8%
【主な科目】				
従業員給料	6,575	6,080	495 ①	108.1%
福利厚生費	257	399	△ 141 ②	64.5%
経費	5,189	5,982	△ 792	86.8%
【主な科目】				
事務委託費	674	976	△ 301 ③	69.1%
調査研究費	245	460	△ 214 ④	53.3%
採用研修費	177	317	△ 139 ⑤	56.0%
地代家賃	548	619	△ 70 ⑥	88.6%

主な科目の変動要因

- ①従業員給料 (前同差+495百万円)
業績連動に伴う賞与額の増加
(富士ソフト)
- ②福利厚生費 (前同差△141百万円)
福利厚生制度変更に伴う減少
- ③事務委託費 (前同差△301百万円)
業務効率化に伴う委託業務の
減少
- ④調査研究費 (前同差△214百万円)
ロボットテクノロジー関連の初期
研究開発完了に伴う減少
- ⑤採用研修費 (前同差△139百万円)
新卒、中途採用数の減少に伴う
採用・教育コストの減少
- ⑥地代家賃 (前同差△70百万円)
自社ビル利用率向上に伴う、
社外賃貸オフィス利用の減少



連結営業外損益の主な変動要因

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同差	前同比
営業利益	1,526	1,636	△ 109	93.3%
営業利益率	2.3%	2.3%		
営業外収益	1,391	564	826 ①	246.5%
営業外費用	1,341	583	757 ①	229.8%
経常利益	1,575	1,616	△ 40	97.5%
経常利益率	2.4%	2.2%		
特別利益	196 ②	1,114	△ 918	17.6%
特別損失	82	146	△ 63	56.4%
税金等調整前四半期純利益	1,689	2,584	△ 895	65.4%
法人税等合計	138	796	△ 658 ③	17.4%
少数株主利益	259	532	△ 273	48.7%
四半期純利益	1,291	1,254	36	102.9%
四半期純利益率	1.9%	1.7%		

営業利益以下のポイント

- ① 営業外収益 (前同差+826百万円)
 営業外費用 (前同差+757百万円)
 システムサービス解約収入
 (+906百万円)と解約損(+853百万円)
 の発生(ヴィクサス)
- ② 特別利益
 投資有価証券売却益
 (東証コンピュータシステム:166百万円)
- ③ 法人税等合計 (前同差△658百万円)
 法人税等調整額の影響



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2011年3月期 2Q 期末	2010年3月期 期末	前期末差
流動資産	50,986	55,306	△ 4,319
現金及び預金	15,124	16,741	△ 1,616 ①
受取手形及び売掛金	25,990	27,215	△ 1,224 ②
仕掛品	1,799	2,499	△ 700 ③
その他	8,072	8,850	△ 777
固定資産	114,043	113,544	498
有形固定資産	78,067	78,375	△ 308
無形固定資産	12,741	12,424	316
投資その他の資産	23,235	22,744	490
資産合計	165,030	168,850	△ 3,820
流動負債	49,877	52,462	△ 2,585
買掛金	6,294	8,701	△ 2,407 ②
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	32,006	31,216	790 ④
未払費用	5,762	5,854	△ 92
その他	5,813	6,690	△ 876
固定負債	31,763	33,090	△ 1,327
長期借入金	22,975	24,202	△ 1,227 ④
その他	8,788	8,888	△ 100
負債合計	81,640	85,553	△ 3,912
純資産合計	83,390	83,297	92
負債純資産合計	165,030	168,850	△ 3,820

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差△1,616百万円)
季節要因に伴う減少
- ②売掛金・買掛金
売上の減少及び、季節要因に伴う減少
- ③仕掛品 (前期末差△700百万円)
大型開発案件進行に伴う減少
(ヴィクサス)
- ④短期借入金・長期借入金 (前期末差△437百万円)
借入金の圧縮を継続



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,824	4,225	599
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,276	△ 5,177	△ 99
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,193	△ 5,895	4,701
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,681	△ 6,865	5,184
現金及び現金同等物の期首残高	16,687	25,465	△ 8,778
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	-	85
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,091	18,599	△ 3,508

キャッシュ・フローのポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
ほぼ前年並みとなりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
ほぼ前年並みとなりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー

前上期は、2008年秋からの金融情勢の変化に対応できるように積み増していた現預金を、経済環境が正常になってきたことに伴い、期中に有利子負債の返済に充当しています。今上期は、期初の現預金が適正水準であり、大幅な増減はありません。

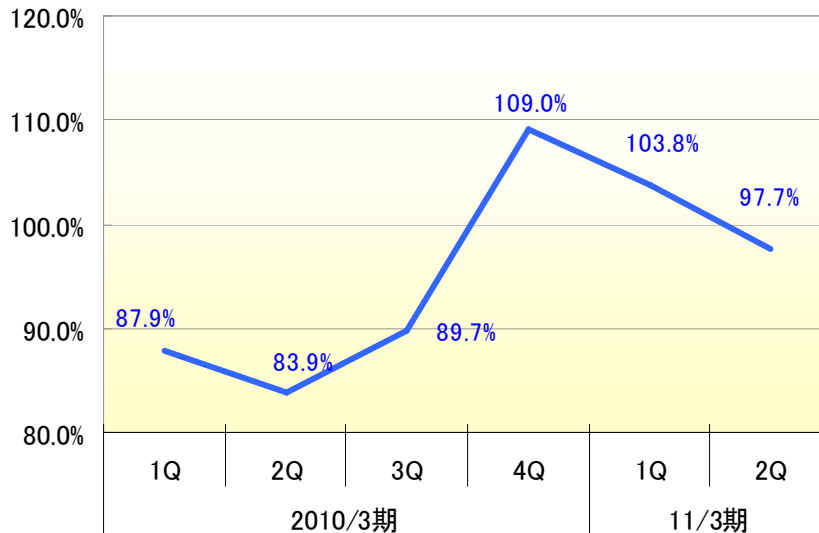


連結SI事業の受注高・受注残

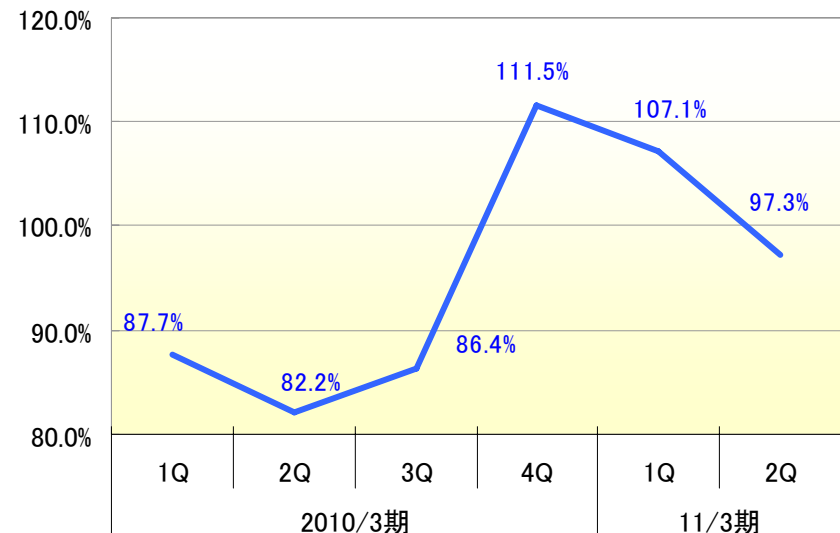
(単位: 百万円)

	受注高				受注残			
	2011年3月期 上期実績	2010年3月期 上期実績	前同差	前同比	2011年3月期 上期実績	2010年3月期 上期実績	前同差	前同比
SI事業 合計	57,660	68,338	△ 10,678	84.4%	32,537	33,426	△ 888	97.3%
組込系ソフトウェア開発	18,809	20,342	△ 1,532	92.5%	8,172	8,974	△ 801	91.1%
業務系ソフトウェア開発	23,286	26,325	△ 3,038	88.5%	12,138	12,399	△ 261	97.9%
アウトソーシング事業	5,981	10,394	△ 4,412	57.6%	6,897	5,824	1,073	118.4%
その他SI事業	9,582	11,277	△ 1,694	85.0%	5,328	6,228	△ 899	85.6%

■ アウトソーシング事業を除いた連結受注残の推移 (旧区分)



■ SI事業全体の連結受注残の推移 (新区分)



● 上期の成長エンジン候補の進捗状況

海外マーケット

- **アジア・南米の新興国でマーケティング活動**
アジアや南米を中心に新興国マーケットでのFSDTV・FSMobile等の組込系プロダクトのマーケティング活動を実施。
- **海外のグローバル展開企業との取引拡大**
組込系の受託ビジネスにおいて、海外のグローバル展開企業からの受託開発を拡大。
上期は、韓国の手家電メーカーの受託開発で1億5千万円の売上実績。

ロボットテクノロジー

- **メーカーを中心に、引き合い増加**
デジタル家電、OA・FA機器、車載機器、計測器、医療機器、住宅設備など、あらゆる電気製品にロボットテクノロジー(知能化ソリューション)を組み込むことができるソフトウェア・プラットフォームを開発中。

シンクライアント + SaaS

- **幅広い業種へ営業拡大中**
5月11日より、モバイルシンクライアントソリューションの提供を開始。
サーバからシンクライアント端末にいたるまで、企業ニーズに合わせた最適な構成を提案・提供し、売上高の拡大を目指す。

流通クラウド

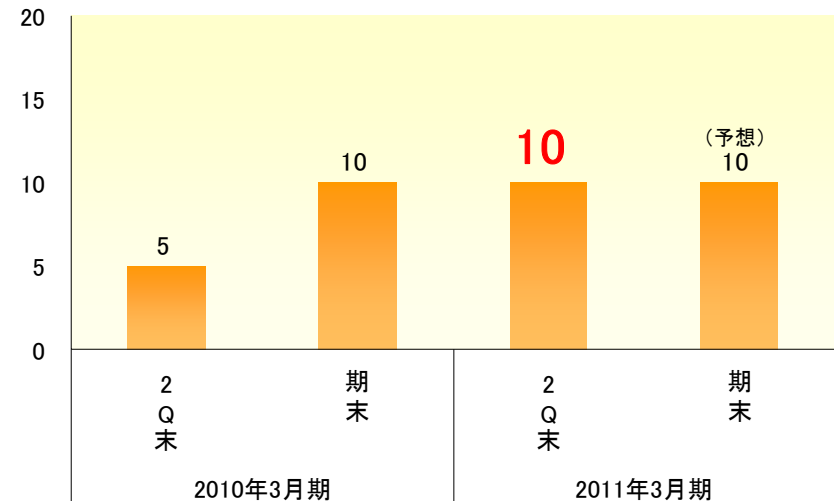
- **プライベートクラウド基盤を構築**
富士ソフト独自のクラウドサービスを提供するための「クラウド基盤」を上期より構築。
10月31日より稼働を開始し、順次、富士ソフト独自のクラウドサービスを提供開始予定。

● 配当について

2011年3月期 第2四半期末配当

第2四半期末配当は、当初計画通り「10円」といたします。

期末配当におきましては、経済環境の先行き不安により下期の受注見通しに不透明感があるものの、安定的な配当の実現の方針に基づき、期初計画の「10円」を据え置きます。



■ 1株当たり当期純利益・配当金・配当性向の推移

(単位:円)

連結	2008年3月期 実績	2009年3月期 実績	2010年3月期 実績	2011年3月期 予想
1株当たり当期純利益	61.89	27.07	116.37	84.68
1株当たり配当金	25	30	15	20
配当性向	40.4%	110.8%	12.9%	23.6%



2011年3月期 連結業績予想



2011年3月期通期 連結業績予想 (11月5日発表数値)

(単位:百万円)

	2011年3月期 通期		
	変更後	変更前	差異
売上高	137,000	142,000	△ 5,000 ①
売上原価	105,000	108,200	△ 3,200
売上原価率	76.6%	76.2%	
売上総利益	32,000	33,800	△ 1,800
売上総利益率	23.4%	23.8%	
販売費及び一般管理費	27,700	28,800	△ 1,100
販管費率	20.2%	20.3%	
営業利益	4,300	5,000	△ 700
営業利益率	3.1%	3.5%	
経常利益	4,500	5,000	△ 500 ②
経常利益率	3.3%	3.5%	
当期純利益	2,700	3,000	△ 300 ③
当期純利益率	2.0%	2.1%	

業績予想変更のポイント

①売上高

上期に下回った1,875百万円に、
ヴィンキュラム ジャパン、サイバーコム、
その他子会社の計画修正分の下方
修正分と、下期より連結対象外となった
マーキュリースタッフイングの下期計画
分を引き下げました。

②経常利益

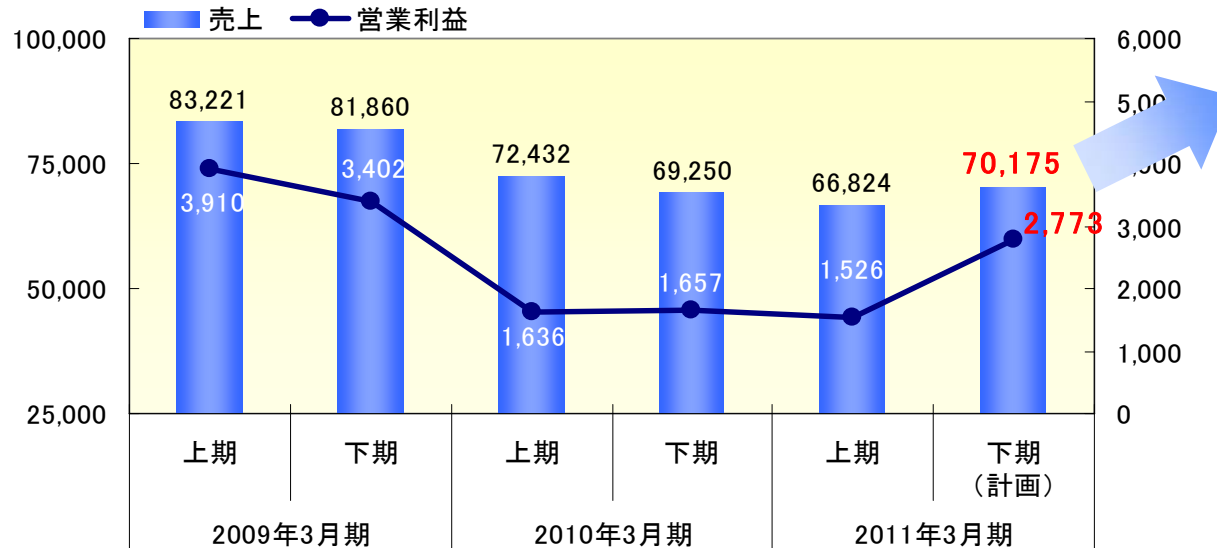
上期の実績にて計画を上回る営業外収
益を考慮し、営業利益から2億円増加
させました。

③当期純利益

通期において法人税等調整額の影響を
見込んでいます。

業績の推移

■ 半期ごとの業績の推移(連結)



JPPGG戦略

- 受託ビジネス基盤の強化
- プライム化
- プロダクト化
- グローバル化
- グループカの強化

成長エンジン候補

- ・流通クラウド
- ・シンクライアント+SaaS
- ・海外マーケット
- ・ロボットテクノロジー

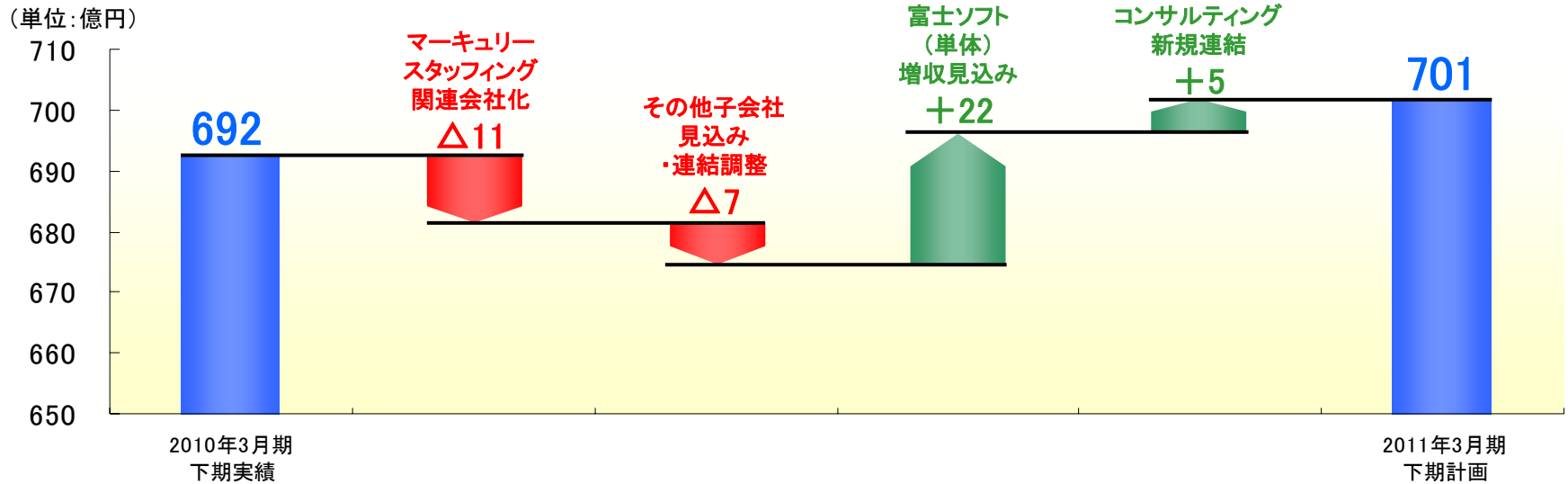
+

売上総利益の改善・販管費の抑制



下期増収戦略

JPPGG戦略で、下期増収を目指す！！



(単位: 百万円)

	2010年3月期 下期 実績	2011年3月期 下期 計画	前同差	前同比
売上高 合計	69,250	70,175	924	101.3%
SI事業	63,611	65,735	2,123	103.3%
組込系ソフトウェア開発	20,289	20,176	-113	99.4%
業務系ソフトウェア開発	23,340	25,292	1,951	108.4%
アウトソーシング事業	8,995	8,249	-745	91.7%
その他SI事業	10,985	12,016	1,030	109.4%
ファシリティ事業	1,071	1,098	27	102.6%
その他事業	4,568	3,341	-1,226	73.1%

● 下期の施策①: 組込系・業務系

下期の重点分野

具体的な施策

組込系・業務系

【組込系】

- ・スマートフォン関連
- ・FSM Mobile
- ・デジタルテレビ関連(FSDTV)
- ・FA(ファクトリー・オートメーション)

【業務系】

- ・生損保関連
- ・EC(イーコマース)

【組込系】

- ・市場の拡大が見込まれるスマートフォン関連のビジネスを拡大する
- ・FSM Mobileは既存のお客様より、リピートオーダーあり
- ・デジタルテレビ関連は上期から好調。下期も引き続き好調を見込むため、受注拡大を目指す
- ・FAにおいては、受注減少に底打ち感あり。受注拡大を目指す

【業務系】

- ・統合案件や制度対応などのシステム開発需要をつかむ
- ・需要が底堅いネット通販などのEC系開発案件を更に拡大する

エリア

地域密着型営業

- ・前年10月に「エリア事業グループ」を新設。中部支社、関西支社、中国支社、九州支社でのお客様のニーズに合わせた営業活動が功を奏し、受注が増加傾向

● 下期の施策②: プロダクト化・グローバル化

下期の重点分野

具体的な施策

デジタルテレビ関連

・台北支店

- ・上期、デジタルテレビドルウェア「FSDTV」の採用モデル数・取引社数が拡大。下期も引き続き受注拡大を狙う
- ・従来の「国内向けモデル」のビジネスだけではなく、「海外向けモデル」に対応できるビジネスを準備中

モバイル関連

・商品企画から手がけた大型プロジェクト

- ・海外メーカーと協業で、国内向け携帯電話を開発、製品化



● 下期の施策③: クラウド・コンピューティング

下期の重点分野

パブリック・クラウド

- ・マイクロソフト「Windows® Azure™」「BPOS」
- ・グーグル「Google Apps」「Google Maps API」「Google App Engine」
- ・セールスフォース

下期の施策

- ・大阪にマイクロソフトソリューション & クラウドセンターを開設し、関西圏の営業も強化
- ・「Google Apps」の拡販と、「Google App Engine」上でのソリューションベンダーとの協業。
- ・セールスフォースにおけるサービスメニューを構築し、主に金融業を中心としたお客様ニーズに対応
- ・「FUJISOFTソリューションセミナー2010」を開催し、「クラウドの富士ソフト」をアピール(⇒詳細 P.23)

プライベート・クラウド

- ・流通クラウド
流通BMS、物流管理、雇用管理などのサービスをSaaS型で提供

- ・富士ソフトの成長エンジン候補のひとつでもある「流通クラウド」を、**今下期サービス開始予定。**
グループ連携でシェア獲得を目指す



● 下期の施策④: その他

下期の重点分野

具体的な施策

アウトソーシング

- ・データセンタービジネス
- ・富士ソフトサービスビューロ



- ・データセンタービジネスは、**流通業、製造業、医事関連企業**の受注が増えており、下期も受注拡大を目指す
- ・富士ソフトサービスビューロは、お客様の**コスト削減ニーズ**に的確に対応し、受注拡大を目指す

その他SI

- ・CAEソリューションサービス(サイバネット)
- ・イデア・コンサルティング



- ・上期好調だった**CAEソリューションサービス**を引き続き強化
- ・イデア・コンサルティングを6月に設立。ERPソフトのライセンス売上が上期計画を上回り好調。下期も好調を見込む



トピックス

トピックス

FUJISOFTソリューションセミナー2010を開催

『Google』『マイクロソフト』『セールスフォース』『アマゾン』が一堂に集結。

今年で3回目となるFUJISOFTソリューションセミナーを10月22日にアキバプラザで開催しました。今回は「実践！クラウド。」をキャッチコピーに、主要クラウドベンダー『Google』『マイクロソフト』『セールスフォース』『アマゾン』の4社を一堂に集め、様々な角度から「クラウドコンピューティング」の促進を行いました。11月16日には名古屋、11月18日には大阪でも開催します。



10月22日開催 東京会場の模様

グループ再編について

JPPGG戦略の『グループ力の強化』を更に図るため、下記のグループ再編を行います。

株式会社マーキュリースタッフングを関連会社化
株式会社マーキュリースタッフングが9月30日にMBOを実施したことに伴い、この第2四半期をもって当社の連結対象子会社から関連会社になりました。

株式会社V&Vを吸収合併

2011年1月1日付けで、当社の連結対象子会社である株式会社V&Vを吸収合併します。今後は、当社内で開発と評価を一括受注する体制とすることにより、今後の収益性の確保と品質保証事業の拡大を図っていきます。



(参考)

2011年3月期第2四半期 単体業績
2011年3月期通期 単体業績予想



2011年3月期第2四半期 単体業績

(単位:百万円)

	2011年3月期 上期 実績	2010年3月期 上期 実績	前同比	2011年3月期 上期期初 計画	計画比
売上高	34,111	34,946	97.6%	35,500	96.1%
売上原価	26,079	27,546	94.7%	26,800	97.3%
売上原価率	76.5%	78.8%		75.5%	
売上総利益	8,032	7,399	108.5%	8,700	92.3%
売上総利益率	23.5%	21.2%		24.5%	
販売費及び一般管理費	7,430	7,930	93.7%	7,900	94.1%
販管费率	21.8%	22.7%		22.3%	
営業利益	602	△ 530	-	800	75.3%
営業利益率	1.8%	-1.5%		2.3%	
経常利益	1,041	△ 454	-	1,000	104.1%
経常利益率	3.1%	-1.3%		2.8%	
四半期純利益	917	27	-	600	152.9%
四半期純利益率	2.7%	0.1%		1.7%	

単体業績のポイント

- ①売上高 (前年差△834百万円)
組込系ソフトウェア開発、
業務系ソフトウェア開発は
前年同期を上回ったものの、
その他SI事業が落ち込み、
全体として減収
- ②営業利益 (前年差+1,132百万円)
開発案件の不採算化抑制に伴
う売上総利益の増加(+633百万円)、
及び販管費の削減(△500百万円)
- ③経常利益 (前年差+1,496百万円)
受取配当金の増加(+276百万円)



2011年3月期通期 単体業績予想 (11月5日発表数値)

(単位: 百万円)

	2011年3月期 通期		
	変更後	変更前	差異
売上高	72,000	73,500	△ 1,500 ①
売上原価	54,900	55,650	△ 750
売上原価率	76.3%	75.7%	
売上総利益	17,100	17,850	△ 750
売上総利益率	23.8%	24.3%	
販売費及び一般管理費	15,300	15,850	△ 550
販管費率	21.3%	21.6%	
営業利益	1,800	2,000	△ 200 ①
営業利益率	2.5%	2.7%	
経常利益	2,000	2,000	- ②
経常利益率	2.8%	2.7%	
当期純利益	1,700	1,300	400 ③
当期純利益率	2.4%	1.8%	

業績予想変更のポイント

①売上高・営業利益

上期において予想を下回った分
(売上高: △1,388百万円、営業利益: △197百万円)
を考慮し、引き下げました。

②経常利益

営業利益の下方修正分に、上期に計上
された受取配当金の増加分(+276百万円)を
考慮し、据え置きとしました。

③当期純利益

通期における法人税等調整額の影響を
考慮して引き上げました。



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。